

2019年5-6月：JaCVAM活動マンスリーレポート

NO.	項 目	記 載 内 容
論文・総説		
1	発表者名	Kobayashi-Tsukumo H ^{*1} , Oiji K ^{*2} , Xie D ¹ , Sawada Y ^{*1} , Yamashita K ^{*3} , Ogata S ^{*4} , Kojima H, Itagaki H ^{*1}
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	^{*1} Department of Chemical and Energy Engineering, Yokohama National University ^{*2} College of Engineering Science, Yokohama National University ^{*3} Corporate Research Center, Daicel Corporation ^{*4} Department of Environment and Information Sciences, Yokohama National University
	総説題名	Eliminating the contribution of lipopolysaccharide to protein allergenicity in the human cell-line activation test (h-CLAT).
	雑誌名、巻（号）、ページ、年	J Toxicol Sci. 2019;44(4):283-297. doi: 10.2131/jts.44.283.
2	発表者名	荻原 琢男*, 細野 麻友*, 小島 肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	* 高崎健康福祉大学 薬学部 薬学科 生物薬剤学研究室
	総説題名	ヒト肝細胞の3次元培養スフェロイドモデルの新展開
	雑誌名、巻（号）、ページ、年	日本薬理学雑誌 2019;153(5):235-241. doi.org/10.1254/fpj.153.235
学会発表		
1	発表者名（口頭）	Kojima H, Ikarashi Y, Nakada T ^{*1} , Yagami A ^{*2} , Todo H ^{*3} , Hoshino Y ^{*4} , Kubo F ^{*4} , Nishimura J ^{*4} , Nakajima Y ^{*4} , Sakaguchi H ^{*5} , Yamaguchi M ^{*5} , Sugiyama M ^{*5} , Hatao M ^{*5}
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	^{*1} Department of Dermatology, Showa University, Fujigaoka Hospital ^{*2} Department of Dermatology, Fujita Health University School of Medicine ^{*3} Faculty of Pharmaceutical Sciences, Josai University ^{*4} Pharmaceuticals and Medical Devices Agency ^{*5} Japan Cosmetic Industry Association
	演題名	Guidance on the Use of Alternative Test Methods for the Safety Assessment of Cosmetics and Quasi-Drugs
	学会名、発表年月及び場所	Dermatology and Cosmetology Conference 2019 (2019.5.14, Narita, Japan)
2	発表者名（口頭）	Kojima H
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	
	演題名	The Japanese Strategy on Chemical Risk Assessment with New Approaches
	学会名、発表年月及び場所	International symposium of Advancing the Chemical Risk Assessment: New Approaches for a Sustainable Future(2019.5.31, Seoul, Korea)
3	発表者名（口頭）	Kojima H
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	
	演題名	Use of new approach methods (NAM) in next generation risk assessment (NGRA)
	学会名、発表年月及び場所	11th World Surfactant Congress (2019.6.4, Munich, Germany)

4	発表者名（口頭）	小島 肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	
	演題名	In vitroからin vivoの予測、ヒト外挿性向上への期待
	学会名、発表年月及び場所	第46回日本毒性学会学術年会（2019.6.26, 徳島）
5	発表者名（口頭）	小島 肇, 小川 久美子, 西川 秋佳 ^{*1} , 若林 敬二 ^{*2} , 鰐淵 英機 ^{*3} , 林 真 ^{*4} , 福島 昭治 ^{*5} , 遠山 千春 ^{*6,7}
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	^{*1} 済生会宇都宮病院, ^{*2} 静岡県立大学, ^{*3} 大阪市立大学医学部 ^{*4} makoto international consulting ^{*5} 化学物質安全性評価研究推進機構 ^{*6} 健康環境科学技術 国際コンサルティング (HESTIC) ^{*7} 東京大学
	演題名	実験動物を用いた安全性・リスク評価に携わる人材育成の必要性
	学会名、発表年月及び場所	第46回日本毒性学会学術年会（2019.6.27, 徳島）
6	発表者名（ポスター）	東端 裕司 ^{*1} , 伊藤 浩太 ^{*1} , 遠藤 ちひろ ^{*1} , 安彦 由喜恵 ^{*1} , 榊原 隆史 ^{*1} , 河村 公太郎 ^{*1} , 松浦 正男 ^{*1} , Raabe H ^{*2} , 吉川 環, 小島 肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	^{*1} 株式会社化合物安全性研究所 ^{*2} Institute for In Vitro Sciences, Inc.
	演題名	ウシ摘出角膜の混濁度および透過性試験法 (BCOP試験) への病理組織学的検査組込の妥当性の検証 -2施設での病理組織学的評価の比較-
	学会名、発表年月及び場所	第46回日本毒性学会学術年会（2019.6.27, 徳島）
7	発表者名(口頭)	小島 肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	
	演題名	皮膚感作性試験代替法を行政的に受け入れるための国際動向
	学会名、発表年月及び場所	第46回日本毒性学会学術年会（2019.6.27, 徳島）
8	発表者名(口頭)	小島 肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	
	演題名	OECD AOPプロジェクトにおける日本の対応
	学会名、発表年月及び場所	第46回日本毒性学会学術年会（2019.6.28, 徳島）
9	発表者名（ポスター）	溝井 健太 ^{*1} , 細野 麻友 ^{*1} , 松本 映子 ^{*1} , 矢野 健太郎 ^{*1} , 下井 昭仁 ^{*2} , 小島 肇, 荻原 琢男 ^{*1}
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	^{*1} 高崎健康福祉大学薬学部 ^{*2} 株式会社イナリサーチ
	演題名	肝スフェロイドを用いた薬物の経口急性毒性試験の実験動物代替法の検討
	学会名、発表年月及び場所	第46回日本毒性学会学術年会（2019.6.28, 徳島）